

AWS 認定ソリューションアーキテクト – プロフェッショナル

AWS Certified Solutions Architect - Professional

(SAP-C01) 試験ガイド

はじめに

「AWS 認定ソリューションアーキテクト – プロフェッショナル」(SAP-C01) 試験は、ソリューションアーキテクト (プロフェッショナル) ロールを遂行する人を対象としており、AWS プラットフォームでの分散アプリケーションおよびシステムの設計における高度な技術スキルと経験を認定します。

この試験で評価する能力は次のとおりです。

- AWS における、動的なスケーラビリティ、高可用性、フォールトトレランス、信頼性を備えたアプリケーションの設計およびデプロイ。
- 与えられた要件に基づいてアプリケーションを設計およびデプロイするための、適切な AWS サービスの選択。
- AWS における複雑な多層アプリケーションの移行。
- AWS におけるエンタープライズ全体のスケーラブルな運用の設計およびデプロイ。
- コストコントロール戦略の導入。

推奨される AWS および一般的な IT の知識と経験

- AWS でのクラウドアーキテクチャの設計およびデプロイに関する 2 年以上の実践経験
- クラウドアプリケーションの要件を評価し、AWS でのアプリケーションの導入、デプロイおよびプロビジョニングについてアーキテクチャに関する推奨を行う能力
- 企業における複数のアプリケーションやプロジェクトに関するアーキテクチャの設計について、ベストプラクティスのガイダンスを提供する能力
- スクリプト言語に関する知識や経験
- Windows および Linux 環境に関する知識や経験
- AWS CLI、AWS API、AWS CloudFormation テンプレート、AWS 請求コンソール、AWS マネジメントコンソールに関する知識や経験
- AWS Well-Architected フレームワークの 5 本柱について説明でき、応用できる能力
- ビジネス目標とアプリケーション/アーキテクチャの要件の対応付け
- AWS の主要なテクノロジー (VPN、AWS Direct Connect など) を使用したハイブリッドアーキテクチャの設計
- 継続的インテグレーションおよびデプロイメントのプロセスのアーキテクチャ設計

試験内容

回答タイプ

試験の質問には以下の 2 種類があります。

- **択一選択問題:** 選択肢には 1 つの正解と 3 つの不正解 (誤答) があります。
- **複数選択問題:** 5 つ以上の選択肢の中に 2 つ以上の正解があります。

文章に最もよく当てはまるもの、または質問の回答となるものを 1 つ以上選択します。不正解の選択肢は、知識やスキルが不十分な受験者が間違えやすいもので構成されています。多くの場合、試験の目的に応じた出題分野に当てはまる、もっともらしい回答になっています。

回答しなかった場合は不正解とされるため、推測でも答える方が有利です。

採点対象外の内容

試験には、採点の対象にはならない項目が含まれる場合があります。これは統計的な情報を集めるために試験に組み込まれています。フォーム上でこれらの質問を区別することはできませんが、スコアに影響を与えることもありません。

試験の結果

「AWS 認定ソリューションアーキテクト - プロフェッショナル」 (SAP-C01) 試験の結果は、合格または不合格のいずれかになります。試験は、認定業界のベストプラクティスとガイドラインに従って、AWS プロフェッショナルにより設定された最低基準に達しているかどうかに応じて採点されます。

試験結果は 100~1,000 点の範囲のスコアでレポートされます。最低合格スコアは 750 点です。スコアによって、試験での全体的な成績と合否がわかります。スケールドスコアモデルは、難易度にわずかな違いのある複数の試験形式のスコアを平均化するために使用されます。

スコアレポートには各セクションレベルでの成績の等級表が掲載されています。この情報は、試験成績に関する全体的なフィードバックを提供することを目的として設計されています。試験では補填形式のスコアモデルが使用されるため、個別のセクションごとに「合格」する必要はなく、試験全体で合格することのみが求められます。試験の各セクションには特定の重み付けがされているため、一部のセクションでは質問数が他のセクションよりも多くなっています。表には、長所と弱点を示す総合的な情報が含まれています。セクションレベルのフィードバックは慎重に解釈するようにしてください。

試験内容の概要

この試験ガイドには、比重、出題分野、および試験の目的のみが記載されています。試験の出題内容全体を記載しているわけではありません。出題分野と比重を以下の表に示します。

分野	試験における比重
分野 1: 組織の複雑さに対応する設計	12.5%
分野 2: 新しいソリューションの設計	31%
分野 3: 移行の計画	15%
分野 4: コスト管理	12.5%
分野 5: 既存のソリューションの継続的な改善	29%
合計	100%

分野 1: 組織の複雑さに対応する設計

- 1.1 複雑な組織に対応するクロスアカウントの認証およびアクセス戦略を決定する (さまざまなコンプライアンス要件、複数の事業部門、さまざまなスケーラビリティ要件を持つ組織の場合など)。
- 1.2 複雑な組織に対応するネットワークの設計方法を決定する (さまざまなコンプライアンス要件、複数の事業部門、さまざまなスケーラビリティ要件を持つ組織の場合など)。
- 1.3 複雑な組織に対応するマルチアカウントの AWS 環境の設計方法を決定する (さまざまなコンプライアンス要件、複数の事業部門、さまざまなスケーラビリティ要件を持つ組織の場合など)。

分野 2: 新しいソリューションの設計

- 2.1 ソリューションの設計と実装にあたり、セキュリティの要件および制御を決定する。
- 2.2 信頼性に関する要件を満たすソリューションの設計および実装戦略を決定する。
- 2.3 事業継続性を確保するためのソリューション設計を決定する。
- 2.4 パフォーマンス目標を達成するソリューション設計を決定する。
- 2.5 ソリューションの設計および実装にあたり、ビジネス要件を満たす導入戦略を決定する。

分野 3: 移行の計画

- 3.1 クラウドへの移行が可能な既存のワークロードおよびプロセスを選択する。
- 3.2 AWS に関する詳細な知識に基づいて、新規の移行先ソリューションに適した移行ツールやサービスを選択する。
- 3.3 既存のソリューションに適した新しいクラウドアーキテクチャを決定する。
- 3.4 既存のオンプレミスのワークロードをクラウドに移行するための戦略を決定する。

分野 4: コスト管理

- 4.1 ソリューションにおいてコスト効率に優れた料金モデルを選択する。
- 4.2 コストを最適化するためにどのような管理を設計し、導入するかを決定する。
- 4.3 既存のソリューションでコストを削減できる可能性を特定する。

分野 5: 既存のソリューションの継続的な改善

- 5.1 ソリューションアーキテクチャのトラブルシューティングを行う。
- 5.2 オペレーショナルエクセレンスの実現に向けて既存のソリューションを改善する戦略を決定する。
- 5.3 既存のソリューションの信頼性を改善する戦略を決定する。
- 5.4 既存のソリューションのパフォーマンスを改善する戦略を決定する。
- 5.5 既存のソリューションのセキュリティを改善する戦略を決定する。
- 5.6 既存のソリューションのデプロイメントを改善する方法を決定する。